

チリは地響きの中で生まれ変わった

「チリは街頭を揺るがす地響きの中で生まれ変わった」

Monday, May 24, 2021

Chile is Reborn by a (Political) Earthquake that Emerged from the Streets

by Patricio Zamorano

Council on Hemispheric Affairs (COHA)

チリで何が起きたのか

先週末チリで起こったことは、もはや後戻りできない歴史的な出来事である。

それは巨大な津波だ。それは海岸に激突しすべてを飲み込む。左翼も右翼も、民主主義の時代も独裁の時代もことごとく呑み込んだ。

2021年5月15日にチリで起こったことは、国家の再構築という国民感情を巻き起こしている。

それは、伝統的な政党政治の終焉をもたらし、多様で多彩な集団の興隆を意味している。

これらの集団は現代の直面する課題を見据えている。それは環境問題とジェンダー平等と首都への一極集中でなく地方の尊重である。

制憲議会は歴史的な意義を持つ

まず結果についてまとめよう。

[Results from Chile's May 2021 elections](#)



選挙管理委員会によると、議席の77%が左翼ないし左翼よりの人々だ。(上の図で言うとみどり以外はすべて左派)

彼らはピノチェト時代とその遺産を拒否し、彼らの敷いた新自由主義の路線を拒否している。

対する右翼は惨敗であった。彼らは VamosChile 連合(上の図で言うと Let's go for Chile)に結集したが、結果としては 37 議席にとどまり、議席の3分の1にも満たなかった。

左翼が改憲案を提案した際に、右翼が拒否権を行使することは不可能となった。

この選挙結果は必然的に以下の事実に帰着する。

ピニエーラ右翼政権、議会の右翼、メディアを仕切る右翼勢力はこれまで国民に劣悪な医療制度を押し付けてきたがそれはもうできなくなるだろう。

少数者を優遇する教育システムは破棄され、すべての国民が利用できるように改革されるだろう。

社会に差別をもたらしてきた金持ち優遇税制は、より公正なものに改められるだろう。

その結果、

チリの圧倒的多数の人々が絶望から切り離されるだろう。そして右翼の指導者たちは、有産階級を襲ったこの災厄の責任を追うことになるだろう。

新自由主義とチリ

新自由主義のイデオロギーは、国家の介入から自由な市場を擁護するかのように見えた。

しかし、チリの実験が示すように、それは国家による大規模な社会的統制のもとでの、自由気ままな経済でしかなかった。そこには議会も政党も社会運動も一切なかった。

独裁政権は、人的資源と天然資源の経済的搾取を促進するために構造調整パッケージを実施し、きびしい緊縮財政を課した。そのため反対派を抹殺する恐怖政治が支配した。

企業が儲けることが、国家と政治の目的となった。公共の利益は資本の利益に従属させられた。

このような新自由主義のシステムは、ピノチェトのあとのすべての政権に引き継がれた。中道左派も中道右派もその例外ではない。

それはトリクルダウンの理論を拠り所にしてはいたが、そんなものはまったくなかった。結局はごく少数の超富裕層を除けば、新自由主義は完全な失敗であった。

いまあたらしいチリは、「性的多様性」、「ジェンダー平等」、「平等な権利と機会」、「包摂」、「寛容」、「社会的尊厳」などのスローガンを打ち出している。

しかし右翼的な保守層は「新しい考え」を理解しようとせず、これらの考えを拒絶し、排除しようとしている。

首都サンチアゴの新市長は共産党員

制憲議会議員と同時に地方選挙も行われた。それは保守的な国であるチリにとって、歴史的な出来事となった。

首都サンチアゴの市長にはイラシ・ハスレルが当選した。彼女はチリ大学の経済学者であり、共産党員である。

チリ共産党はかつてノーベル文学賞を受賞したパブロ・ネルーダ、偉大なシンガーソングライターのビクトル・ハラを生み出した党である。

疑いなくそれは保守派、軍部、反共主義者にとって深刻な打撃だった。この党こそ、ピノチェトのクーデター以降拷問・失踪・絶滅計画の主要な対象だったからである。

保守メディアは彼らの不安を表明した。「槌と鎌とロシア語の書かれた」赤旗が至るところにたなびきました。

それは人々に対し、共産主義への恐怖より、そのシンボルに加えられた政治弾圧への恐怖を思い起こさせるものだ。

それは根本的変革を遂げつつあるこの国で、いまだに過激な反共思想が強力であることを示す。

制憲議会選挙では、ほかにも重要な変更があった。それはジェンダーの重視と民族文化の平等を重視することだ。

少なくとも議席の45%が女性に指定された。また先住民コミュニティのためにも17議席が確保された。

チリ国民の80%が憲法改正を支持

去年10月の憲法改正に関する国民投票では、改正賛成票が圧倒的だった。そこに示されたチリ国民の希望を反映するために、この2点は不可欠な要素である。

その主目的はピノチェト旧憲法の反民主的な規定を全面的に排除することにある。旧憲法は強いもの勝ちの原理で構成され、シカゴボーイズの新自由主義を反映したものだ。

制憲議会は健康、教育、年金などの分野から資本主義的な発想を取り除くことになるだろう。そしてそれらの分野をを基本的社会的権利のカテゴリーに戻すことになるだろう。

全体として、議会は、より公正な憲法の枠組みを確立することにな

るだろう。富と収入が全人口にうまく分配され、地球上最悪と言われるこの国の、途方もない不平等を中和することになるだろう。

地方選挙の結果は、より大きな変化への前触れとなっている

第二の都市バルパライソでは、独立左翼のホルヘ・シャープ市長の続投が決まった。バルパライソ近くのもう一つの主要都市ビニャデルマルでは、比較的保守的な政治風土を打破し、新興左翼「拡大戦線」のマカレナ・リパモンティが当選した。

中南部のコンセプションでは独立左派のカミロ・リフォが次点となった。

サンチアゴ首都圏では、右翼はマイブ、ニューニョア、エスタシオンセントラル、サンベルナルドなどの大規模な自治体首長のポストを失った。

総合すると、1900万人の人口の3分の1を抱えるサンチアゴ首都圏全体で、中道左派が27の首長ポストを獲得、いっぽう右翼は14のポストを確保したにとどまった。このほか独立系候補が11のポストを獲得した。



これからどうなるか？

6月から7月にかけて憲法制定会議が発足する。憲法草案の起草には9ヶ月から12ヶ月かかるとされる。それから約60日後に国民投票が行われる。つまり、2022年にチリの新しい憲法が実現することになる。

2年前、社会の草の根の人々が路上で闘って、声を上げてきたことが、いまや憲法によって正統性を与えられようとしている。

ビジネスおよび金融セクターは、復興のための支援の必要性に迫られている。2020年のマイナス成長はパンデミックによって増幅され、6%に達した。

大統領宮殿の主人ピニェラには、それを行う力は残っていない。国の慢性的な不平等と社会的怒りの爆発は、保守派のイデオロギー的な索道の余地を残していない。

(鈴木 頌のブログより)